



テーマ：社会課題に取り組む働き方



はたらくしろくま

- 「はたらくこと」をテーマに つながる居場所づくり -

NPO団体 はたらくしろくま 代表 青木久美子



自己紹介



1972

岩手県で生まれる

明治大学政治経済学部卒業・明治大学大学院法学研究科前期課程修了

東京にて就職・結婚

第一子出産

夫の仕事に帯同し高知県へ 高知労働局に入職

第二子出産

夫の仕事に帯同し香川県へ 香川労働局に入職

2018

NPO団体はたらくしろくま立ち上げ

今日の 講演内容



01

活動のきっかけ

02

はたらくことをテーマに
つながる居場所をつくる

03

ヒト・地域・企業が
共にHappyになるように
四国HRbaseの立ち上げ

労働基準監督署

年次有給休暇が
取れない

労働条件通知書を
もらっていない

36協定を超えて残業さ
せられる／残業代が払
われない

通勤途中に事故にあった
／仕事中に怪我をした

労働基準法・労災保険法・
労働安全衛生法....



労働局 雇用環境・均等局（室）

育児休業・介護休業・
育児短時間勤務制度が
取れない

パートだからって
不合理に賃金が安い



パワハラ・マタハラ・
セクハラ・就活セクハラ

妊娠したら解雇された
・パートに変更された

フリーランス？労働者じゃ
ないの？

男女雇用機会均等法・育児介護休業法・
パートタイム有期雇用労働法・労働施策総合推進法・女性活躍推進法...

電通過労死事件



2015年12月、入社から約9ヶ月後、社員高橋まつりさんが過労自殺

- ・自動車保険とFX証券のデジタル広告
- ・過労自殺の1ヶ月前の時間外労働は130時間56分に及んでいた
- ・パワハラ・セクハラ
- 「髪がボサボサ」「女子力がない」
- ・懇親会の幹事業務が訓練の場

(1991年の事件24歳の男性社員大嶋一郎さんが入社2年目に過労自殺した経緯もある。3日に1度は徹夜という「常軌を逸した」長時間労働が原因。2000年に最高裁が電通の責任を認める判決を下した。)

防ぐことはできなかったのか・・・

労働組合があるはずよね？



推し活・ライブ・映画・・・
趣味など少しでも気分転換で
きる時間が持てたら変わって
いたのか？

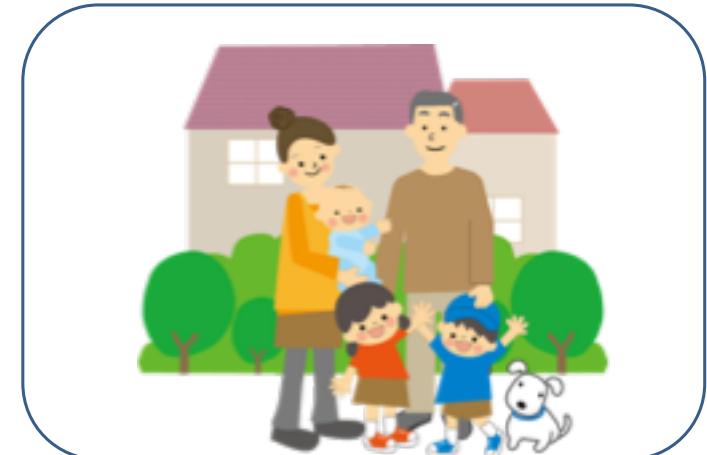
日本独特！

ジョブ型雇用だったらこんなことは起きないはず。日本独特のメンバーシップ型雇用であるがゆえの惨劇。
飲み会の幹事業務で叱責・
レポートなんてあり得ない。

職場の同僚や上司は職場環境
に不満はないの？

時間外労働規制やハラスメント対策など、国がやるべきことはたくさんあるけど、市民レベルでできることはないか？

職場



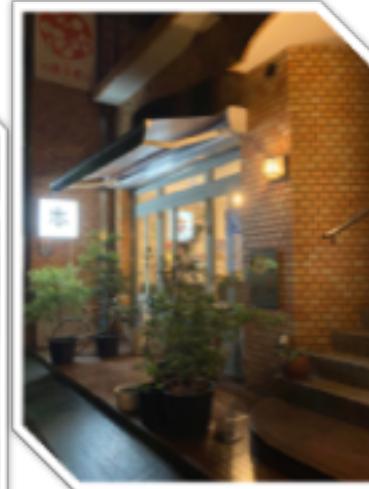
家庭

サードプレイス・居場所

職場と家庭以外に、
「はたらくこと」について、気軽に
語り合える場所をつくりたい。
こり固まった心に、すっと風を通す
ような対話の場を。

街中の本屋さんにて『哲学対話』

- ・定期開催
- ・街中 会社帰りにふらっと寄れる
- ・初めましての方が参加しやすい



「話す」ことは、「放す」こと。
忙しい時ほど、あえて人と話す時間をつくりに行こう。
話すことで、心のもやもやを、ペリペリっと剥がして。
違う視点が見えてきて、前に進めるはず。

対話を通して寄せられる困りごと・モヤモヤ



デザインの力で心地よく「はたらく」

- ・講師を招いてワークショップ
- ・様々な視点から「はたらく」を考える



素敵カフェを数店舗経営するデザイナーさんから、心地よく感じるデザインを学んで職場で活かす。

生態系から学ぶ「はたらく」



踏まれることで種を拡散させるオオバコの生存戦略等、植物や生物・宇宙から「はたらく」を考える。

Active Book Dialogue☆ 本と対話を楽しむ



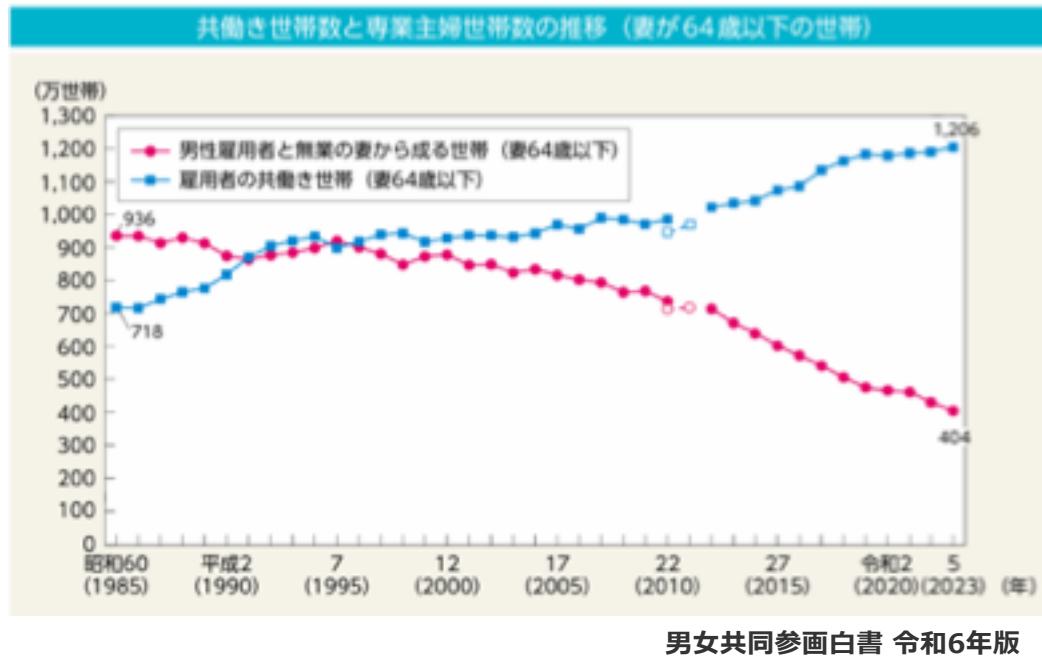
一冊の本を分担して要約・プレゼン。

全員で一冊理解した上で、感じたことや気づきを対話します。
『他者と働く』『7つの習慣』『織細さん』‥



ライフスタイルの変化

政府目標：第1子出産前後の女性の継続就業率 70%（令和7年）

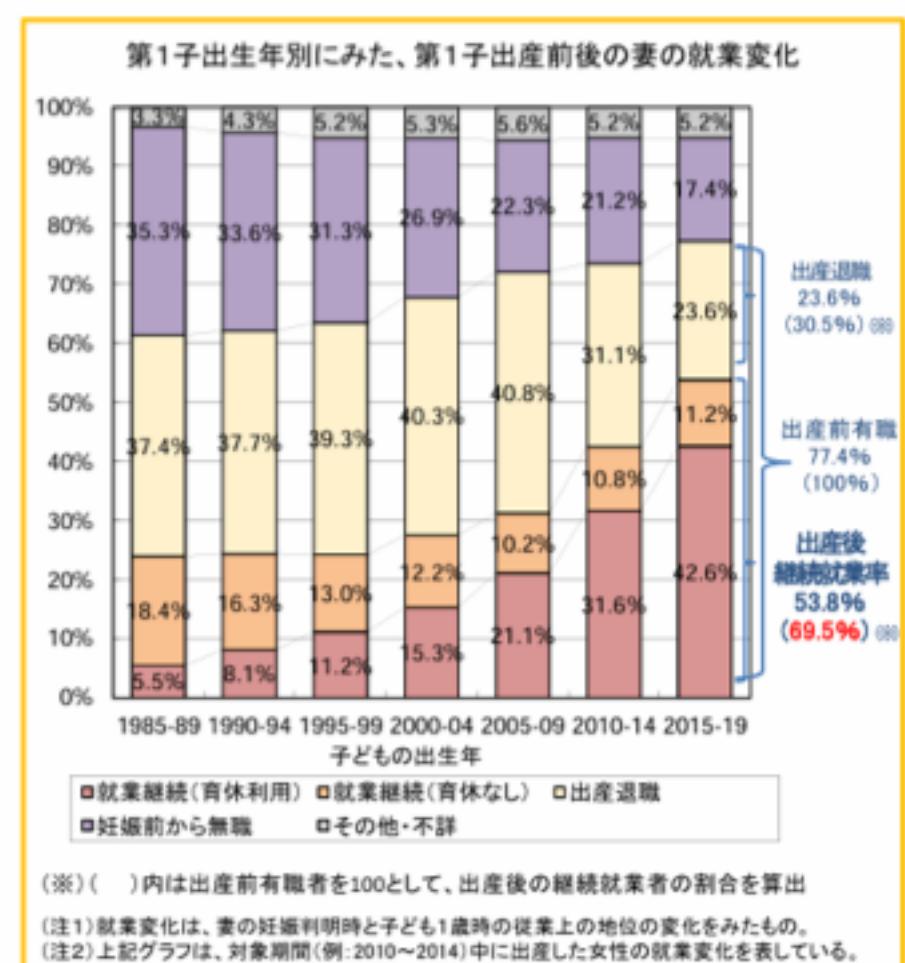


育児休業取得率

女性: 84.1% (前年度 80.2%)

男性: 30.1% (前年度 17.13%)

令和5年度(2023年度) 雇用均等基本調査



結婚・出産・育児・介護・病気など、
様々なライフイベントを避けて、はたらくことを語ることはできない。

しろくまが考える「はたらく」とは、お仕事だけでなく、
家事や育児・介護を含めたまるっと命を支える営みすべて。

私たちは圧倒的に哺乳類である（子を孕み母乳を与える母を経験し実感）。動物である。

私たちは、ネクタイを締め、あるいはヒールを履いて、玄関を開けたら、効率性を是とする社会を素知らぬ顔で歩んでいくのである。



育児と「はたらく」



子どもを育てるということは本当に大変。仕事との両立となると、肉体的にも精神的にもタフさが必要。ガハハと笑って共感して泣いて、前に進める、そんな対話の場です。育児期間は段取り力・コミュニケーション能力をアップさせる鍛錬の時間でもある。人間力がアップしているのだ!ブランクとか言わせない。

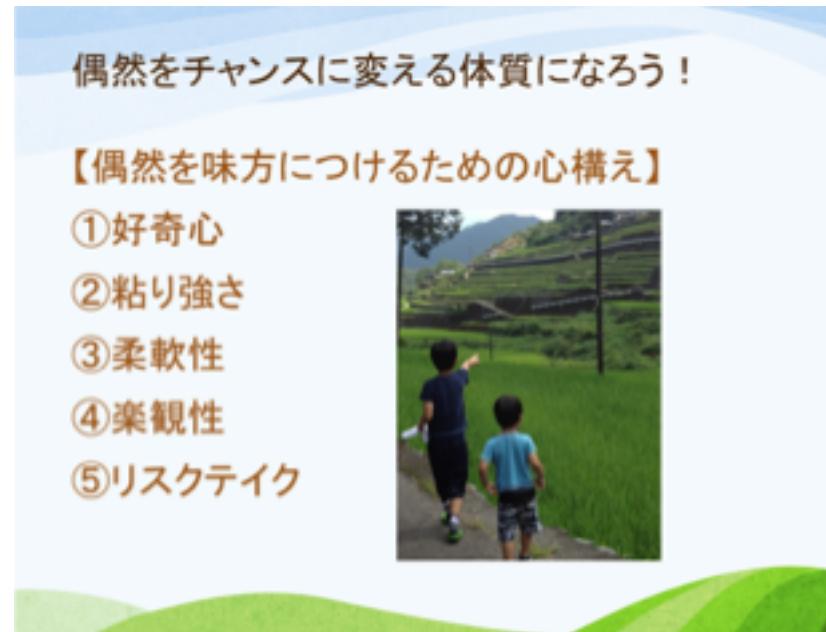
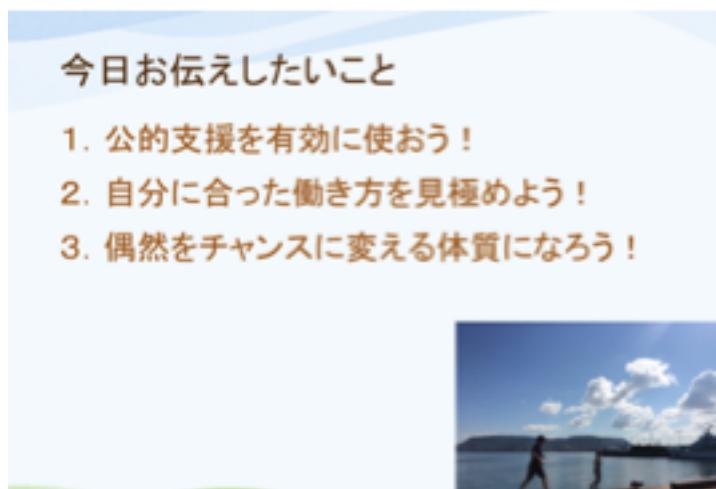


障がいを抱えた子とともに「はたらく」



保育所に受け入れてもらえない障害児を養育する親は、会社勤めを諦めなければならない現実があります。起業したり、フリーランスになったり、時間制約のない働き方をしている講師の方々からお話を聴き、気づきを共有しました。

「移住妻・転勤族の妻」の働き方を考える



転勤妻が、その土地になじみ働くことの困難さ(なかなかに大変;)、見逃されてきていたよね。
転勤妻がつながる場づくり。



地域に目を向ける

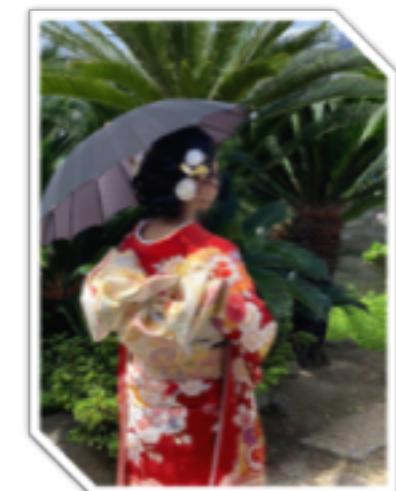
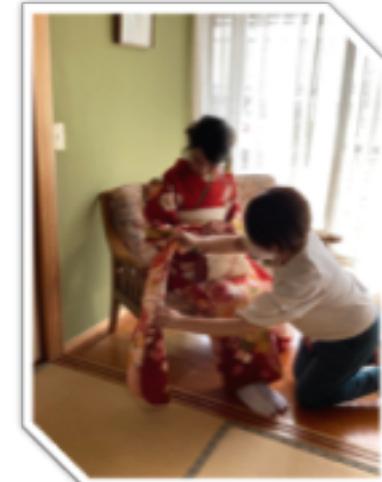


ひとり親世帯をつなげる・居場所をつくる



長屋みたいにみんなで
子育てできたらいいな。
つながることで救われ
ことがある。

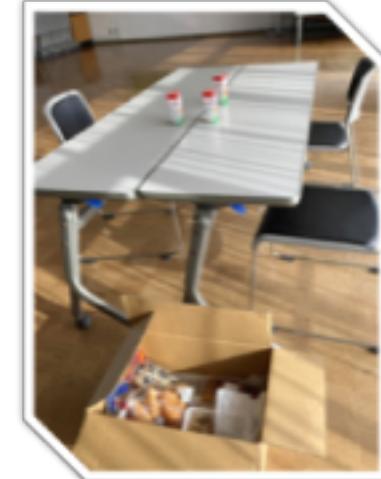
振袖を、着たいと言えなかったあなたへプロジェクト



ひとり親世帯の伴走支援を始める



シンママさんを、某市の福祉相談員さんにつないで、同行支援。パントリー物資を持って。生活保護の申請は、世帯全体の預貯金10万円以下、車も売却しなきゃ難しいって。10万は、申請が下りるまでの生活費として。足となる車まで売って、本当に丸裸にならないと、申請って難しいんだ。健康で文化的な生活を得るって、とても厳しい…働けないのは病気のためで、障害年金や介護保険の制度を検討するけど、申請にはとてつもないパワーと知識がいる。社会の安全網から落ちるのは割と簡単なのだ。



地域の「子ども食堂」と一緒に活動する



人が誰かを思う気持ちが循環して、誰かがふっと楽になったり、あたたかなつながりができたり、そんな場面に出会うことが幸せで、NPO活動をしている気がします。

市民向け講座を企画・実施する



「今、考える。あなたの「働き方改革」～
地域や家庭を大切にしながら、健やかに、
しなやかに働くために～」「世界を変える
ために起業するということ」等



「世界を変えるために起業する」ということ @ 麦縄の里

～社会起業家といふ生き方～



地域や環境、世界をより良くするためにビジネスを興す人々が、麦縄の里に集まっています。起業家の方の想いを知り、自分の理想の社会に近づくために、起業で解決する方法を考えてみましょう。

- 講師：麦縄の里 代表 まさご屋 2代目店主 真砂 泰介さん
- こんな方は是非お参りください
- ・副業、アーティストなど、身軽にやりの小さなことから
- ・ビジネスで楽しんでいきたい方
- ・環境・地域をより良くしたいと考えている方
- ・とりあえず話を聞いてみたい方

参加費：2000円（学生さん無料）飲み物付き
定員：10名程度



11月21日
(SUN)

15:00-17:00

場所：麦縄の里
まさご屋（香川県高松市東
植木町1361）

令和6年度 高松市男女共同参画センター市民企画講座

主催：NPO団体はたらくしろくま / 高松市男女共同参画センター

community cafe for Society Entrepreneurs

【女性の就労・自立支援】【地域コミュニティの形成】【女性のエンパワーメント】
【ソーシャルビジネス・ライフビジネスStartUp】

「自分の得意ごと・気づきを活かして小さく起業・活動してみよう」
～世界一やさしい事業計画の立て方～



たとえば、自分の得意ごとを誰かに教えたり、環境に優しい生活スタイルを広めていくこと。育児や介護・病気や障害などのライフイベントを経て気づいた視点を社会に発信していくこと。独立して専門スキルを社会にもっと自由に還元していくこと。課題解決のために地域にコミュニティをつくっていくことなど。

自分の得意ごとや気づきを活かして、小さく起業・活動してみませんか。きっと、自身の世界を広げ、周りの人や地域、社会を豊かにしていくはず。

ビジネスで誰かを幸せにするということ

市民向け講座（まちづくり・チームビルディング）

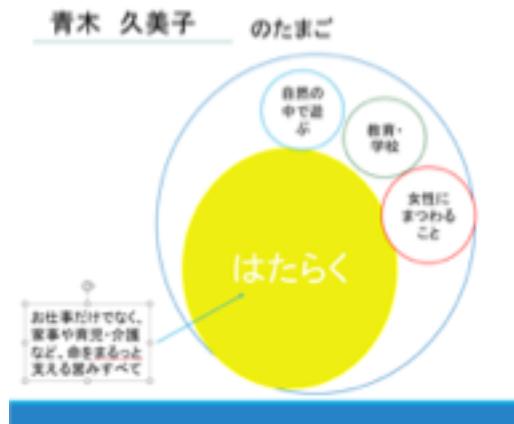
自分ごとから始めるまちづくり ～男女共同参画の視点から～

NPO団体はたらくしろくま
代表 青木久美子



自分ごとから始めるまちづくり

1. 「わたし」をどんどん掘り起こす
2. 私の興味・関心・ワクワク・モヤモヤ
3. ビジョンとミッション
4. 私の行動宣言





企業に目を向ける



会社を超えて女性管理職をつなぐ



企業研修の講師を務める



ハラスメント対策、女性活躍、育児・介護と
仕事の両立、ダイバーシティ、LBGTQ相
談員研修 他



人的資本経営とダイバーシティ
～女性にやさしい会社から、
誰もが働きやすく働きがいのある会社に舵を切る～



NPO団体はたらくしろくま
代表 青木久美子

瀬戸内中讃定住自立圏 女性活躍推進協議会主催 2024.11.11



結局のところ



不可分。
つながり
合っている。

はたらくひと



企業・職場



地域・家庭
・社会



三者が
ともに豊か
になること
が必要

2025年～新しいフェーズへ

企業・自治体・学校・NPO
等が一緒に考える



地方企業が抱える最大の問題
＝人手不足（若者の県外流出）

解決なくして、地方の繁栄・企業
の成長・はたらく人の幸福はない

四国HR (Human Resources) baseの発足

若者に選ばれる企業になる!

四国

HR base

※HR (Human Resources) とは「人的資源」。人材の採用、開発・育成、評価、マネジメントなどの業務を行う人・興味を持つ人々が集うbaseです。

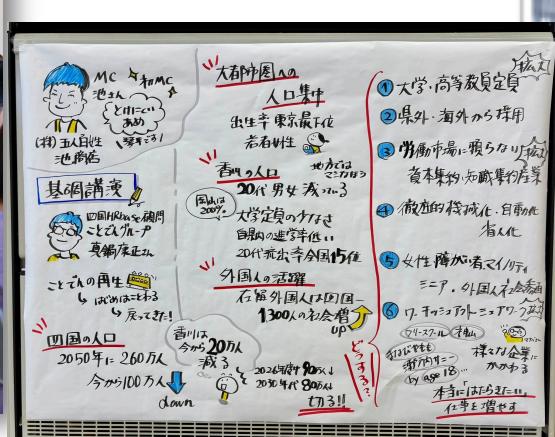
～強い「人事」をつくる。
「オモイのある会社人」をつなぐ～

人事部は、欠員補充や手続き業務に留まるべからず。会社の経営戦略に基づいて働きやすく働きがいのある会社にするべく、社員の能力を最大限に活かし、やる気にあふれた才能豊かな人材を採用する戦略を持つ必要があります。

「香川に活気があつて面白い企業がある」ことをそれぞれの企業が広報していくことで、県内の学卒者が県外に就職してしまうのを食い止め、UIJターン者がぞろぞろやってくる、そんな地域となることを目指すHR・アツイ会社人仲間の集まりです。

企業の垣根を越えて、
経営者・人事担当者が
集まり、勉強会を実施。
学生や自治体職員、各
種団体やNPOも一緒に
学んでいく。

四国 HRbase プラットフォーム



四国HRbase定例会①

四国HRbase vol.1 対話とつながりの場へようこそ

「地域において
人が生きるということ」

～経営者・HR部門・会社員・学生・大学・地域
NPO・行政の方など、グループワークで考えよう～

講演50分、
ワークはたっぷり1時間半！



チ講演



参加費
1千円

香川大学経済学部教授 青木宏之

2025 7/1



対話してみよう

「よく聞く」
「自分の言葉で話す」
「人それぞれで終わらせない」

対話のルール

- 人の言うことに否定的な態度をとりません（イラッとしたら、なぜ自分に怒りがわいたのか自身を振り返ってみましょう。あなたの本質があつたりします。）
- 話を聴いているだけでも大丈夫（パスあります！）
- たくさん質問してみよう
- 時間は平等。みんながお話できるようにしましょう
- 分からなくなっても大丈夫（正解は求めません）
- 経験をたくさん聴かせてください
- 今日ここで聞いたことは、他の人に話しません

心の芯からの対話ができる、心地よい居場所づくり。
「話す」ことは
「放す」こと。
雄弁さは不要です！



おわりに

同じ組織に長年いると、どうしても同質的な考え方染まってしまう。

突然の不本意な異動や人間関係のつまづき、

困難なできごとに遭遇することもある。

思ったように社内で自分が評価されないこともあつたりする。

ライフィベントももろもろあるけど、

女性の場合は特に、結婚・出産によってライフスタイルに大きな影響を受けやすい。

どんな場面にあっても、様々な立場の方との対話を通して様々な価値観にふれて、ふわっと心に風を吹かせることが必要なのだ。風を通す**余白**を、必ず心に持っていてくださいね。

そして、感じたことをぽつりぽつりと言葉にして、場のテーブルに置いてみてください。その言葉は自身を、あるいは他者を動かす原動力となります。

はたらくしろくまは、心の芯からの対話を通して、あたたかでさわやかな風が吹く居場所をつくり続けていきます。





2025.12.4